~Mirary soa~

マダガスカル通信
第10号
2023年5月29日

◎プロフィール
名前：光成 沙也加 (MITSUNARI Sayaka)
隊次：2021年度4次隊 (2022/4～2024/4)
職種：看護師
派遣国：マダガスカル
任地：アンチラベ (首都から南に車で4時間)

◎任地で日本祭り開催！！

今月、任地の隊員と日本祭り**“MADA-JAPO MATSURI 2023”**を開催しました！このお祭りを開催するために約4か月前から任地のメンバーと話し合いを重ね、時にはそれぞれの熱い思いをぶつけ、妥協点を探りながら、みんなが本気で最高のお祭りにしようとしていることを感じました。

今回のお祭りは「**マダガスカル人と日本人との絆や異文化理解を深める**」「**今後の活動の活性化と住民の生活向上**」というテーマで開催され、栄養･保健･裁縫･農業･スポーツ･歌やダンスなど、それぞれの隊員の得意分野を活かしたブースやステージ発表になりました。

私は**栄養食販売**、**布ナプキン販売**、**経口補水液のデモンストレーション**のブースを担当しました。普段活動を一緒にしている保健ボランティア(AC)さんたちに各ブースを担当してもらい、お客さんたちに販売や説明をしてもらいました。

手洗いダンスを踊った子どもたち

↑経口補水液の説明をするACさん

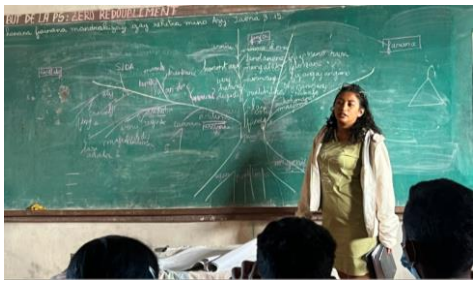
ACさんによる
栄養食販売

布ナプキンの説明をしてるACさん

栄養食販売ブースでは、“キャッサバの葉のパウンドケーキ”と”白インゲンのういろう”の販売を行いました。 マダガスカルでは**“ラビトゥトゥ”**という、水分を含み、キャッサバの葉をすり潰したお茶っ葉のようなものと豚肉を煮込んだ、**“ラビトゥトゥ･シー･ヘナキス”**というおかずが**ソウルフード**です。キャッサバの葉のパウンドケーキは日本でいう抹茶のような味がして、お祭りでも好評でした。また、白インゲンを塩で味付けしたおかずとしてしか食べたことのないマダガスカル人にとって、白インゲンのういろうは初めて食べる塩気と甘みのあるおやつだったようでしたが、気に入ってリピートしてくれるお客さんもいました。

布ナプキン販売は保健ボランティア(AC)さんにお願いしました。この日のために100枚の防水布のナプキンを仕立屋さんに作ってもらっていましたが、販売できたのは25枚で販売することの難しさを感じました。製作コストと時間がかかって販売価格が上がってしまったという反省点を活かして、今後農村の女性や学校に通う子どもたちにも買って使ってもらえるものに改良を重ねたいと思います。

◎学校で性教育実施



保健分科会の活動で、**高校生を対象**に学校で性教育を実施しました。活動先で性教育をやりたいけれど進め方が難しい、協力者がおらず進まない、などそれぞれの任地で悩みを持った隊員たちが集まり、任地で性教育を実施している隊員とその協力者に来てもらって、性教育を勉強させてもらう形で準備を進めました。そして今後一緒に性教育をやっていけるように、普段一緒に活動をしているACさんにも今回の性教育に参加してもらいました。

生徒たちには、**“思春期の心と体の変化について”“暴力について”“早すぎる性交渉による影響について”**という3つのテーマでグループワークをしてもらい、それぞれについて話し合いました。生徒たちは自分たちの問題として捉えて積極的に意見を出して発表をしていました。

また、今回参加したACさんからは、「今まで性教育の教え方が分からずできなかったが、今回方法が分かったので自分たちでもやってみたい」という前向きな声が聞かれました。それぞれの任地のACさん同士が交流できたこともよかったのかなと思います。分科会で学んだ性教育の方法を活かして、任地でもACさんと性教育を計画していきたいです。

行きつけのコーヒー屋さん

初対面でもすぐにナマナ！

◎マダガスカルのここが好き！

マダガスカルに来てあっという間に1年が経ちました。赴任当初は、初めてのマダガスカル語を覚えて現地の人とコミュニケーションを取るのに必死の毎日でしたが、1年経つと何となく会話が成り立つようにもなってきて、少し現地の生活にも慣れてきたなと実感します。マダガスカル人とはよく**“タマナベ (住み心地はいい) ？”“タマナ (住み心地はいいよ)！”**という決まり文句の質問から会話が生まれます。自分の生まれた場所を誇りに思って大切にしているマダガスカル人らしい言葉だなと感じていて、とても好きな言葉です。

またマダガスカル人は日本人と性格が似ていて、真面目で穏やかでシャイなところがあります。しかし人懐っこさもあり、少し会話をするだけで**“ナマナ(友達)”**認定され、**周りの人はみんな友達**という他人も仲間として大切にする精神があります。誰でもすぐに受け入れる包容力は素敵だなと感じます。

多めに入れてくれた野菜とお肉

そして、自分たちに余裕がなくても、人のためにお金やものを使える、**思いやりの心の持ち主**が多いです。以前、少し離れた村へ訪問する際に、ACさんがバスで迎えに来てくれたことがありました。合流してバスに乗り、村へ向かっていると、「お礼だから」と私のバス代まで出してくれました。またある時は、農村のご家族の家でごはんをいただく機会がありました。元々少ないおかずから私の分を「感謝の気持ち」だと多めによそってくれました。決して裕福ではない2人でしたが、この人たちの気持ちに心温まりました。何気ない生活の中で**心の豊かさ**を感じるマダガスカルがとても好きです。この気持ちを残り1年でお返ししていけたらと思っています。